

# チュニジア

## 【国名】

- チュニジアは北アフリカに位置する共和制国家。西にアルジェリア，東南にリビアと国境を接し，北と東は地中海に面している（地中海の対岸は，北にイタリア，東にマルタ島）。
- 地中海，アラブ，アフリカの3つの顔を持ち，交通の要衝に位置するチュニジアでは，古代からカルタゴ，ローマ，ビザンツ，アラブ，トルコ，フランス等，さまざまな民族・文明が盛衰し，多様な文化を織り成している。

## 【国旗】

- 1831年の制定以来，わずかに変更されたのみ。中央の三日月と星はイスラム教の象徴であり，赤色はオスマン帝国時代の反抗勢力の名残りと言われている。



チュニジア国旗

## 【国章】

- 船， 剣を持ったライオン， 天秤が描かれている。船の下にはアラビア語でチュニジアのモットー「自由， 秩序， 公正」が記されている。



## 【アラブの春の発端国】

- 2010年12月17日，チュニジア中部シディブジッド県で野菜を路上販売していた失業中の青年（ムハンマド・ブアジジ氏）が，警察から商品と秤を没収され，さらに暴行による屈辱を受けたとして，県庁前で抗議の焼身自殺を図る。
- この事件は，高い失業率や国内の経済格差に対する市民の不満に火をつけた。
- 経済発展から取り残されたチュニジア内陸部で始まった抗議の波は，瞬く間に社会的公正や自由，尊厳を求める大規模な反政府デモへと発展した。

- 2011年1月14日、ベン・アリ大統領はサウジアラビアへ退去。これにより、23年間続いたベン・アリ政権は幕を閉じた。
- ちなみに、チュニジア国外の報道等に見られる「ジャスミン革命」という呼称は約300人の死者を出した革命には相応しくないとの理由から、チュニジアでは使用されていない。

## 【チュニジアの女性】

- 建国の父、初代ブルギバ大統領は女性の地位向上に努め、個人地位法（1956年制定）によって一夫多妻制の禁止、裁判離婚制度、結婚における両者の合意の必要性、女性が男性と同等の賃金を得る権利等を定めた。今日チュニジアはアラブ・イスラム諸国の中で最も女性の社会進出が進んだ国の一つである。2014年に制定された新憲法においても、男女平等が保障されている。なお、我が国が主催した「女性が輝く社会に向けた国際シンポジウム（WAW! 2014）」に、チュニジアからブシャマウイ UTICA（経団連）会長（当時）が参加した。

- 都市部では、西欧的な服装で街ゆく女性の姿を多く見かける。一方、家庭内では、家事・育児は女性の役割と見なす考え方も強く残っており、特に地方の農村部においてはそれが現在も顕著である。

## 【観光とユネスコ世界遺産】

- チュニジアは日本の4割ほどの国土しか持たない小国でありながら、実に多様な自然と地形に富んでおり、2017年にはヨーロッパ、中近東諸国等から705万人、日本からは1,900人の観光客がチュニジアを訪れた。

### 観光のポイント

- ①地中海のリゾート地：1,300kmにおよぶ地中海沿岸部は、世界有数のリゾート地であり、世界第2位のタラソテラピーの施設数を誇る（ハマメット、タバルカ、スース、モナスティール、ジェルバ等）。
- ②多様な文化と遺跡：先住民族ベルベル人やカルタゴ、ローマ等の地中海文明、またアラブやフランス文化など様々な文明、文化、民族の影響を楽しむことができる（タタウ

インのクサール, マトマタの穴居住宅等)。また, 自然遺産を含む8つの世界遺産がある。

- ③自然: 北部の緑の大地から南部の乾燥地帯, 大塩湖, アルジェリア国境沿いに南北に連なる山脈, そしてサハラ砂漠まで自然の変容を楽しむことができる(ショット・エル・ジェリド(塩湖), クサール・ギレン等)。
- ④映画のロケ地: 南部で「イングリッシュ・ペイシエント」や「スターウォーズ」が撮影された(マトマタ, オング・エル・ジュメル等)。

## 【チュニジアのスポーツ】

- チュニジアで最も人気のあるスポーツはサッカー。ワールドカップ初出場は1978年のアルゼンチン大会, その後1998年フランス大会, 2002年日韓共催大会, 2006年ドイツ大会まで3回連続出場しているアフリカの強豪国。2018年ロシア大会にも出場。

- 2002年の日韓共催大会では予選リーグで日本と対戦し、日本が2対0で勝利（チュニジアは予選リーグ敗退）。
- 2004年のアフリカ・ネーションズカップで優勝した他、2011年及び2018年のFIFAクラブワールドカップにもエスペランス・チュニスがアフリカ王者として出場を決めている。

## 【女子スポーツ】

- チュニジアでは女子スポーツも盛んである。
  - ・2012年ロンドン五輪では、ハビバ・グリビが3000m障害で銀メダルを獲得。
  - ・ハンドボールでもチュニジア女子代表はロンドン五輪に出場した。
  - ・柔道女子のハウダ・ミレドは、2012年1月のワールドカップ・ソフィアの70kg級で、日本選手等を破り優勝した。2014年10月米国開催の世界ジュニア柔道選手権では、サラ・ムズギが78kg以下級で金メダルを獲得した。

- その他、バレーボールやサッカー、テニス、卓球等、さまざまな種目でアフリカ、アラブ世界ではトップレベルで活躍している。

## 【日本との関係】

(チュニジア通り：宮城県石巻市)

- 桃生町（現・宮城県石巻市桃生）にホームステイしていたチュニジア人留学生と町民の交流をきっかけに駐日大使が同町を往訪したことを記念して、チュニジア通りが設置された。その後、オリーブの植樹やモザイクの設置なども行われた。

(筑波大学の取組)

- 筑波大学とチュニジアとの科学技術分野での交流は1997年来の長い歴史がある。筑波大学は、2004年に「北アフリカ研究センター」、2006年に「海外拠点筑波大学北アフリカ・地中海事務所（現名称：チュニスオ

フィス)」を設立し、円借款「ボルジュ・セドリア・テクノパーク建設計画」や「乾燥地生物資源の機能解析と有効利用」等の科学技術協力を通じて、チュニジアの研究者との共同研究やチュニジア留学生の受け入れを推進している。また、日本とチュニジアの自然科学、人文社会科学、工学を含む幅広い領域の研究者の交流の場として、2000年より「チュニジア・日本文化・科学・技術学術シンポジウム」(TJASSST)を毎年開催している。

### (講道館によるチュニジア柔道支援)

- 1960年代、2011年の革命を機に途絶えるまで歴代各地に講道館の柔道家が青年海外協力隊員として派遣されてきた。その成果もあり、チュニジアは世界選手権優勝者など、著名な柔道家を輩出している。



## (東京 2020 ホストタウン)

- 東日本大震災の際にチュニジアが自国料理の炊き出しを提供するなどして支援した石巻市が、チュニジアの「復興ありがとうホストタウン」に指定されている。また、横浜市もチュニジアのホストタウンとして登録されている。(了)